

○ 塩協会 (Salt Institute)

1 塩協会訪問

1.1 Salt Institute (SI)

1.1.1 訪問内容

参加者とともに現地通訳が同席し、SI (塩協会) の会長が応対。

塩事業センターより事業概要について説明し、塩協会の概要や米国の塩事情について会長より伺う。

1.1.2 協会概要

所在地はバージニア州アレクサンドリア、アメリカ連邦議会議事堂やダウタウンから5マイルほど(車で10分ほど)の場所。

住所、連絡先は以下の通りである。

700 N. Fairfax St., Suite 600, Alexandria, VA 22314-2040

Telephone: 703 549 4648 (Alexandria) 613 564 0534 (Ottawa)

FAX: 703 548 2194

e-mail: info@saltinstitute.org

http://www.saltinstitute.org/

1914年にシカゴで設立され、1966年にアレクサンドリアに移転するまではそこに事務所を置いていた。

昔から塩を生産する企業の事業者団体であり、もともとは北米の会社が会員であったが今は国際的な団体である。3大塩メーカー(カーギル、モートン、コンパス)を含む11社が正会員で、海外メーカーを中心に35社が準会員となっている。アジアからは、中国とインドの会社が準会員として参加している。

会員のニーズを満たすために存在しており、その任務は、社会が塩化ナトリウムの恩恵を受けられるようにすることである。

スタッフは5名(会長、副会長、技術担当役員、管理担当役員、管理者補佐)おり、協会の職員は会長(the President)によって指揮される。

会員は投票会員と非投票会員があり、全ての会員は塩化ナトリウムを生産および販売している企業である。塩を生産するもののそれを販売用の製品に加工する企業(例えば塩素アルカリ化学薬品企業)や他社が生産した塩を流通・再販売のために購入する塩卸業者や販売業者は会員の資格を持たない。

協会の資金はその会員によって、実質的には会議や出版などにかかる手数料によって完全に賄われている。

個々の正会員会社のCEO(Chief Executive Officers)から構成されるCEO評議会(Council)によって統治される。CEO評議会は選出された議長によって指揮される。正会員は米国に拠点のある塩生産者で、準会員は米国またはカナダ外に拠点のある塩生産者

で、準会員は北米で著しい市場プレゼンスのある場合に正会員になり招待される。提携会員は業界のコンサルタントを行う。

会員の利点としては、知識豊富で勤勉な塩協会職員と十分にコミュニケーションがとれること、塩協会の年次総会（と特別集会）への参加資格を持つこと、ホームページの会員限定サイトへのアクセスが可能なこと、塩協会安全認証プログラムに参加できること、塩協会の技術及び政策開発のワーキンググループへ参加できること、正会員は CEO 評議会の CEO 会員資格を持つ等がある。

1.1.3 質疑応答の内容

(1) 調査活動や情報収集活動について

塩協会はマスコミ、機関刊行物、技術および医学ジャーナル、政府刊行物をチェックしている。スタッフは他の多くの一般の企業・産業組織、特に鉱業と製造業の企業・産業組織、そして顧客の団体（道路機関、食品産業、水処理産業、動物飼料産業など）と連絡を取り合っている。

その情報や意見を明白な支持表明・問題処理戦略の一部として公開している。会員とのコミュニケーションを図るため、他の団体の会議での発表、公聴会、文書による公式コメントや白書、オンラインセミナーなどの主な手段に加えて、公開ウェブサイト、会員専用パスワード制御のウェブサイト、ニュースレター、ブログ（公開および会員制）、フェイスブック (Facebook)、ユーチューブ (YouTube)、ツイッター (Twitter)、そしてもちろん直接の会議や電話などの手段が用いられている。会員専用ウェブサイトには、塩協会テックデータセンター (Salt Institute TechData Center) で選別された 2 万 5 千以上の資料からなる技術ライブラリーが含まれている。

塩と健康の問題に関する付加的なコミュニケーション手段として別に「マイクロサイト」(SaltHealth.org) も運営している。消費者には、凍結防止、食品調理、イオン交換による硬水軟化処理などのための塩の使用に関する情報を提供している。

(2) 労働者の安全管理に関する制度、検査機関、検査認証 (ISO 等) について

米国労働省の労働安全衛生管理局 (OSHA) と鉱山安全保健管理局 (MEHA) は安全基準を定め施行している。

職業安全衛生管理局と鉱山安全保健管理局の調査官は営業時間中であればいつでも生産施設を訪れて調査を行なうことができる。

なお、塩産業の作業場に関する特別な規則はない。

(3) 塩に関する法律で特質すべき点、州による相違点

塩に関することで各州の間に目立った違いはなく、例外は輸送税を含む税金だが、これは塩に限ったものではなく、塩にかかる特別な税はない。

(4) 塩の需給状況について

塩の市場はおおむね予測可能である。気候により道路用の塩の売り上げは大きく変動するが、冬の厳しさで予測できる。

食用塩の売り上げは人口増減により変動し、動物用の塩の売り上げは飼育されている動物の数により変動する。

長期的傾向を見ると、水処理用の塩の売り上げは着実に増えており、化学用塩の売り上げはなだらかに減少。

岩塩の生産は最も急速に増加しており、天日塩がそれに続いているが、これらは特定の技術的選択によるものではなく、末端市場（ユーザー、消費者）の嗜好を反映したものである。

(5) 1工場当りの平均製造能力について

生産能力には大きなばらつきがある。典型的な蒸留塩工場は年間20万トン、天日製塩所は年間100万トン、岩塩坑は年間300万トンを生産し得る。

(6) 塩の主な輸出先について

輸出について協会では追跡記録はしていないがデータはあり、輸出の大部分はカナダ、残りの大部分はメキシコに輸出されている。

(7) 塩の安定供給について

塩市場はおおむね安定している。例外は2008年の「道路用塩不足」として知られる出来事で、それによって価格が急上昇し顧客に不安をもたらした。

(8) 消費者の塩の嗜好性

消費者は一般的に価格、品質・利便性などを考える。塩に関しては、こうした要因が生産技術による選択肢より優先し、これらは地域による違いはない。

(9) 市場における塩商品の種類

店舗ごとに独自のブランドを持っていて非常に多くあるが、工場までさかのぼると、同じ商品でラベルが違っているだけのものが多い。

(10) 副産塩（副生塩）(By-Product of Chemical Industries) について

副生塩について個別の追跡は行っていない。

カリウム選鉱くず*はアルバータ州、サスカチュワン州およびユタ州で再生されている。テネシー州ニュージョンソンヴィルにある施設では副生塩が利用されている。

貯蔵用洞窟を造ることを業務としているエネルギー会社が生産した塩を“副生塩”と見る人もいる。

その塩が食塩の品質と生産規格を満たしていれば食用に使うことができると考えられるので、他の利用方法（地下貯蔵等）があるなしに関わらず、協会としてはこれを塩であると見る。

*「選鉱くず」不純物の少ない品質のよい鉱物を取った残りの鉱物のこと。

(11) 蒸留塩工場の主なエネルギー源とエネルギー政策に関するトピック

石炭が豊富で安価なオハイオ州を例外として、天然ガスが蒸留塩工場の主な燃料である。エネルギーを含めて製塩に使うすべての物の価格には多くの税金がかかる。エネルギー使用者・製造業者にはるかに高いコストを強いるであろう排出権取引法案（“cap and

trade” bill)が議会で検討されている。

(12) 塩に関する諸課題（環境問題、健康問題）

環境および健康問題は重要な優先事項であり、労働者の安全、税、貿易、輸送・流通、市場開発（道路凍結防止、硬水軟化処理など）も同様である。

「環境問題」

同程度に重要な最重要課題が 2 つあり、それは冬季における道路サービスの質（道路用塩による凍結防止対策）の確保と、環境への塩化物の影響（道路用塩の周辺環境への影響）である。これらは塩産業の将来を決定する重大な問題である。

「健康問題」

ヨードに関することを含めて塩と健康の関係は重要な課題である。塩協会はヨード摂取を促進する世界的なキャンペーンに積極的に携わっている。

アメリカとカナダの食品製造業者はヨード添加塩を使っていない。塩協会はヨード添加塩の使用を促すように率先している。ヨード添加塩は、レストランで使われるくらいで、家庭向けではほとんど使われていない。このためアメリカにおけるヨードの摂取は著しく低下しており、さらに低下すると思われる。

もう 1 つの主要な課題は、食塩摂取を減らすことが健康を向上させるのかどうか、そして塩の摂取量を正常摂取域内（ナトリウム 2,300–4,600mg/日）に減らすことはそもそも可能なかということである。アメリカ食品医薬品局（FDA）は食品安全に関する規制（GMP）を施行している。

塩の摂取と高血圧の問題がいつも取り沙汰される。食事摂取ガイドラインが農務省から出ているが一般は関心が薄い。雑誌や政府でも大々的に宣伝したがあまり効果ない。

政府はいつも塩が高血圧の大きなリスクファクターとして取り上げるが、高血圧はインシュリンやホルモンなど他の影響も大きく一方的に塩ばかりを取り上げるのは間違いと考えられる。LawSalt（減塩）では心臓病による死亡例も多いという報告もある。広い視点で研究し、塩の利点にも焦点を当てるべきである。米国内での臨床リサーチでは 30%減塩により死亡率アップとの報告もある。



周辺の環境（ポトマック川）



SIのある建物